

教育再生会議 足踏み

安倍首相直属の教育再生会議が、日、日間の台宿を終えた。分科会によっては第2次の素案がまとまるなど前進もあったが、子どもの数に応じて金を出し学校同士を競わせるパウチャー制度や、いじめた子たちに対する出席停止など一部の具体論では意見がまとまらなかった。会議の運営では、箱口令が出たり、事務局が「横やり」を入れたりして迷走気味だ。

2分科会で「2次素案」

今回の合宿では、「学2次素案」がまとまった。校再生分科会（第1分科会）と、「規範意識・家族・地域教育再生分科会」（第2分科会）の第2次素案がまとまった。ゆとり教育の見直しや社会人から教員への積極登用、教員評価に保護者や生徒の評価も反映させる制度の導入、ボランティア活動の充実などが第1次素案に引き続いて記され、第2次報告に盛り込まれる方向

「9月入学」文言消える

10月12日 朝日新聞

9日あった第3分科会。記者会見で配られた文書には、原案にあった「9月入学の検討」という文言が消えていた。

「自民党に気をつかったのでは」と明かす。できるものを優先するといふ安倍首相の意向も背景にあるようだ。6日に厚労省にもした田原総一郎氏によれば、「教育問題は言い尽されてきた」と話している。事務局である官僚の「横やり」も目立つ。

分科会主査の白石重澄・東洋大教授は8日、「全く国すべてではなく、地域で希望があれば導入する」と明言。しかし、会議全体のとりまとめ役で元高校教師の義家弘介氏

議論公開に神経質

担当する山谷えり子首相補佐官は10月18日の初会合の後、「議事録は早急で発表するので、非公開ではない。公開」と強

調した。しかし、裏に公された議事録は初会合分だけ、簡略な議事要旨も11月8日の分までしか公表されていない。委員たちからこれまで必

じていた会議後の個別取材も9日、「混乱を避けるため」という理由で受け付けないことになった。複数の委員は報道陣に「山谷さんが説明するか

は、与党への配慮もあるようだ。自民党の教育再生特命委員の中山成彬委員長は8日、「テレビ出演等は自費してほしい」とか、勝手にしゃべると、まるで決まっていたことになるという意見があった」と苦言を呈した。

「具体的に審議して」と慎重だ。第2分科会の素案で検討課題と明記された出席停止では、義家氏が「当然あり得る。自分は売れている子どもたちと向き

合ってきたから」と前向きな一方、ワタミ社長の渡辺美樹氏は「否いちゃうのは簡単。そうさせないよう提言するのが再生会議だ」と思っていると

ら」と述べただけで会場を去った。しかし、「毎回、会見する」はずの山谷補佐官は「3回目の会合で、報道陣に説明をしていない。政府が10月末、一政府の立場を説明する役割でない」とする人の補佐官佐官の国会出席を拒んだことに伴い、補佐官会見も事実上取りやめになったためだ。9日は会見場の壁際に貼っていたが、途中で退席した。会議が情報公開に神経質になっている背景に



教育再生会議の分科会で討議を始める委員たち。9日午前9時、東京・高輪のホテルで、恒成利幸撮影

教育再生会議で新たな検討項目となった改革の具体策

- 小学校高学年の理科・算数などの専科教員の積極的導入
- 土曜スクールを実施し、補習
- 教員研修は問題のある教員に重点化
- 問題のある教育委員会に対する国の是正・改善措置要求
- 学校選択制やパウチャー制の考え方を参考に学校への予算配分を弾力化
- 教育委員の常勤化
- 国が教委の評価のガイドラインを作成、都道府県ごとに教委の評価委員会を設ける
- 問題のある子どもに対する出席停止を含めた厳しい対応
- 「家族の日」は正月、盆、春秋の彼岸に。前後1週間は休業ゼロに